

Audio Front page

オーディオフロントページ

アラン・ショー氏とハーベスのスピーカー

傅 信幸

久しぶりにアラン・ショー氏に会った。態度も話しぶりも控えめで、相変わらずの英国紳士ぶりだ。パーティの場だったのでわたしはインディゴブルーのジャケットに白いズボン履き、パリッとした恰好で出かけていた。彼とわたしとはほとんど同じ年齢だが、「昔より今のほうが若く見える」と言ってくれる彼は、とても地味なスーツ姿だった。彼と会うのは5年ぶりくらいだが、その落ち着いた態度にますます磨きがかかったようだ。

アラン・ショー氏はロンドンの南、ウエストサセックスの人口3千人の街でこつこつとスピーカーを生産している。ハーベス (HARBETH) のスピーカーの設計者であり責任者である。ハーベスは1977年(昭和52年)に誕生、創業者は若かったショー氏にとってヒーローだった。80年代の半ばにショー氏は縁あって創業者からハーベスのブランドを買い取った。BBC(英国放送協会)のモニタースピーカーの流れを汲む「プリティッシュ・サウンド」の継承者がアラン・ショー氏であり、ハーベスのスピーカーは、新しくなければ古くさくもない、繊細にしてしかも穏やかな音で、まさに中庸をいく黄金のバランスの音が聴けるスピーカーだ。日本や中国のマーケットで人気がある。

ハーベスの中心機種、HL-P3ESR、HL Compact 7ES-3を見たまえ。シンプルでオ

ードックスな2ウェイ構成。いまどきめずらしいくらいの直方体のエンクロージャーは決して頑丈ではなく、ワーンと小さいながら鳴く。水滴型で剛性の高いエンクロージャーが主流の今日、ハーベスの響くエンクロージャーは、楽器のボディを連想させる。

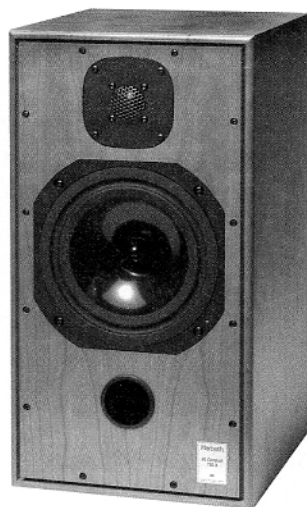
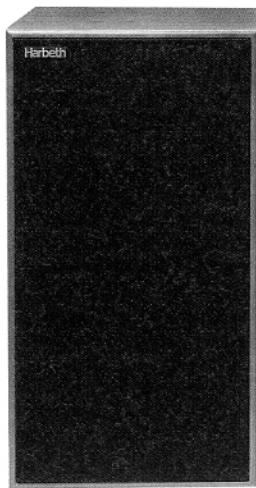
音楽の主な帯域を再生するウーファのコーンを見たまえ。柔らかな高分子材料からできている。しかも中心部から外周部へかけて共振をコントロールするように成型されているそうで、これはハーベスの特許になるコーンだ。ハイテク素材を使ったカチンカチンに硬いコーンの場合は、空気をグイグイとグリップしてしっかりと音に変換する仕事をするように採用されている。反面、カンカンとしたクセのある音をなくすように設計者は腐心させられる。

一方、ハーベスの設計手法は、柔らかいコーンだったらクセのないスムーズな音が出せるということに採用の理由が尽きる。

ハーベスのHL-P3ESR、HL Compact 7ES-3を聴きたまえ。グイグイとした低音の躍動感、リズムカルな爽快さは苦手なのだが、地味であり、ほんのりとして穏やかな鳴りかたを耳にすると、現代の最先端のスピーカーが音の透明度や鮮明さを追求するあまり、何かを忘れてきたかのような思いがさせられるのだ。おまけに前述のようにエンクロージャーは楽器のボディのように鳴くから、柔らかく響きが付加される。

ハーベスのスピーカーでジャズをガンガンと楽しんでいる人はゼロではないだろうがわたしの知る限りはいらっしゃらない。ハーベスのスピーカーの愛用者は、クラシック音楽ファン、それからAORやヴォーカル・ファンであり、大人の愛の唄をしんみり、あるいは甘酸っぱく聴こうという人たちである。

ハーベス社のキーマン、アラン・ショー氏に久しぶりに会って、彼のその落ち着いた人となりに触れ、彼が音決めをするスピーカーが、彼の性格とそっくりなことを再認識した次第だった。彼がもしも、英国ではなく、イタリアやスウェーデンで生まれ育っていたら、いったいどんなスピーカーを作っていたらどうかと、ふと考えた。



ハーベス HL Compact 7ES-3 ¥346,500 (ペア)

●問い合わせ：エムプラスコンセプト TEL.045-845-7639